

3週間で低Ca対策！

バイオクロール

微生物蛋白の供給源にも！

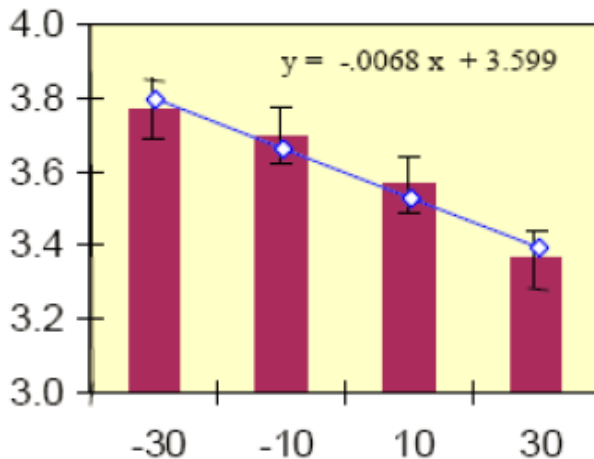
25kg 紙袋入り

低カルシウム血症の対策として、分娩後すぐにカルシウム剤を経口投与することや、分娩前にビタミンDを投与する等の方法があります。その他、分娩前にできる事として飼料中のイオンバランスを調整する方法があり、バイオクロールはこの調整(負のDCAD給与)に最適です。

右の図は、飼料中のDCADをマイナスにすると血中のイオン化Ca濃度が増加することを示しています。バイオクロールには硫黄、塩素等の陰イオンが多く含まれており飼料のDCADをマイナスに持つのに最適！ 分娩前3週間当製品を給与する事で飼料中のイオンバランスを整え分娩に備えましょう！

その他、バイオクロールには微生物の細胞、アミノ酸、ペプチドが豊富に含まれ良質な蛋白源としても期待できます。

血中イオン化カルシウム濃度 (mg/dl)



DCAD, meq/100g

【給与期間】

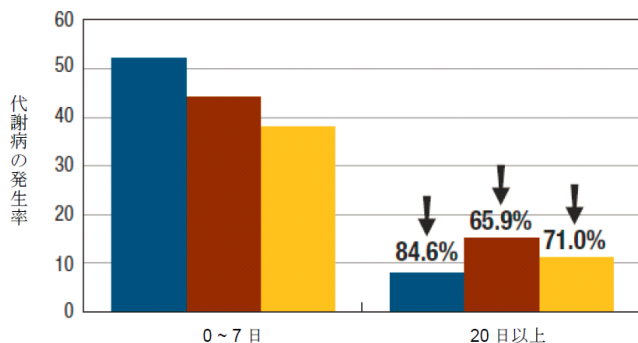
分娩前3週間

【給与量】

300g~700g/頭・日

バイオクロールの給与による健康への効果

■ 乳熱 ■ 後産停滞 ■ 子宮感染症



バイオクロールを摂取した期間 (クローズアップペ滞在期間)

Corbett, Journal of Dairy Science, 2001.

販売元

日曹商事株式会社

主な飼料のDCAD値 (乾物%、mEq/100g)

チモシー乾草: 19.5

スーダン乾草: 41.5

ルーサン乾草: 29.6

コーンサイレージ: 14.2

稲わら: 28.9

コーン圧片: 3.1

大麦圧片: 4.0

大豆粕: 32.0

加熱大豆: 29.7

綿実: 13.8

DCAD値は土壌中のイオン濃度によって異なりますので、あくまでも目安ですが、通常乾乳中に給与される飼料のほとんどが高いDCAD値を示します。

陰イオンを含む硫酸カルシウム、硫酸マグネシウム等の給与でイオンバランスを整えるやり方があります。

しかしこれらの陰イオン源は嗜好性が悪く、給与量が制限されてしまいます。

対してBio-Chlorは陰イオンの他に穀類、菌体蛋白等を含むため、嗜好性に問題は無く、問題なく使用できます。